

多言語・多文化社会論(歴史) 2007-5-17

青山 亨:インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史講義  
受講生からの質問と回答

コメントシートから代表的な質問を取り上げ、簡単な回答を示しました。

【質問 01】インドネシアではイスラーム、キリスト教、仏教、ヒンドゥー教が存在していますが、互いに宗教的対立を起さないのでしょうか。なにか政治的な工夫がなされているのでしょうか。ビデオは互いに平和に共存している印象を受けました。

【回答 01】インドネシアでも宗教間の対立を示すような事件は起こっています。たとえば、1999年から2000年頃にかけてアンボン島やスラウェシ島のボソでイスラーム教徒とキリスト教徒間の抗争が起こり数千人が殺されました。しかしながら、このような宗教間の抗争はインドネシアではどちらかと言えば一時的で例外的な出来事だと言ってよいでしょう。今あげた事件も、強権的なスハルト政権が崩壊した後の混乱期に、混乱を助長しようとする一部のグループが外からやってきて引き起こしたと言われていています。宗教の違いは経済的・政治的・社会的な対立が生じるときに名目として使われていると考えた方がよいでしょう。

それでは宗教を異にする民族集団がどうして比較的平和裏に共存できているのでしょうか。これは複雑な問題ですが、簡単に言えば、第一に、それぞれの集団が自分のホームグラウンドと呼べる領域を持っていることが心理的な安定感をもたらしていること(たとえば、バリ島のバリ人ヒンドゥー教徒、北スマトラ州のバタック人キリスト教徒)、第二に、30年を超えるスハルト政権において進められた、インドネシア国民としての一体感(各民族はインドネシア国民の下位区分であるという意識)を醸成する政策が一定の効果をもったことが理由に挙げられます。

皮肉なことは、中央集権的なスハルト政権が崩壊して政治の民主化が始まったことで、地方の自立が進み、インドネシアの統一にきしみが生じてきたことです。現実には東ティモールは独立を勝ち取りました。むろん、このような分離独立がすぐにも起こるというわけではありませんが、これからのインドネシアの政治は、民主主義を守ることと国家としてのまとまりを維持することの間で今までに以上に難しい舵取りをしていく必要があります。

【質問 02】インドネシアには多様な文化があることを学びましたが、インドネシアは互いをどのように意識しているのでしょうか。

【回答 02】インドネシア人は学校教育の段階からインドネシアの国是である「多様性の中の統一」

を教えられます。つまり、多様な民族から成り立っているけれども国民としては一つだという国家の建前です。むろん、現実には広大なインドネシアをすべて知っているインドネシア人はほとんどいないでしょうし、リーディングスでもあげられているように民族間のジョークやステレオタイプはたくさんあります。しかし、このような揶揄やからかいも、多民族が共存していくための工夫と考えることもできると思います。

【質問 03】歴史的にはヒンドゥー教や仏教が先に入ったのに、なぜイスラームがこれほど普及するようになったのでしょうか。

【回答 03】ヒンドゥー教や仏教が先に伝来していたにもかかわらず、後から来たイスラームによって、バリのような例外を除くと、取って代わられたことにはいくつかの要因があります。第一に、ヒンドゥー教や仏教を受容したのは宮廷を中心にした支配層であり、一般庶民の宗教にはなっていなかったこと（バリは例外です）。第二に、13 世紀をすぎた頃からインド以西でイスラーム化が進展し、東南アジアはヒンドゥー教や仏教の「本家」を失ってしまったこと、があげられます。その結果、支配層が経済的な利益などに惹かれてイスラームに入信すると庶民もそれにしたがうことになりました。そしてその後、メッカを中心とした宗教者のネットワークが作られ、民衆への地道な布教が続いたことが、現在見られるようなイスラームの普及につながったと考えてよいでしょう。

キリスト教は 16 世紀に香料諸島にやってきたポルトガルなどによって東部インドネシアに広がりました。オランダ植民地時代に宣教がおこなわれた地域（バタック人など）もあります。仏教は主に華人が、ヒンドゥー教は主にバリ人が信仰している宗教です。

【質問 04】公用語であるインドネシア語を話せない人はいないのでしょうか。

【回答 04】西はスマトラ島のアチェから東はニューギニア島のパプアに至るまで、インドネシア人のほとんどすべてがインドネシア語を話せると言ってよいと思います。ただし、ほとんどの人にとってインドネシア語は二番目の言語ですから、インドネシア人の中にも標準的なインドネシア語で話すことを苦手とする人もいます。

【質問 05】インドネシアの公立学校は宗教ごとに分かれているのでしょうか。

【回答 05】インドネシアは特定の宗教を国教としてはいません。公立の学校では基本的に宗教に対して中立の立場を取っています。授業の中で宗教の時間もありますが、生徒の宗教に応じて、別々の教室で授業をおこないます。

【質問 06】ビデオで紹介されていたデパートは、休み時間が少なく労働時間超過になっているように感じました。インドネシアには労働基準法のようなものはないのでしょうか。

【回答 06】インドネシアにも労働基準法はあります。ビデオで示された情報だけからでは、紹介されたデパートの休憩時間や労働時間について正確に知ることはできません。ただ、ミハルスさんが昼過ぎに帰宅している映像がありましたら、一日の中で交代制を取っていることが推測できます。

【質問 07】ビデオでは女性が企業での昇進を目指す話が出ていましたが、女性の進出はどの程度進んでいますか。

【回答 07】インドネシアに限らず東南アジアの社会は伝統的に女性の社会進出が顕著です。フィリピンやインドネシアで女性が大統領に選ばれたという点を見ても、儒教の影響が強い東アジアの社会（たとえば日本）よりも、ある意味では進んでいると言えるでしょう。また、経済成長が高い国の特徴として（高度経済成長期の日本を思い出してください）現在の日本で予想される以上に出世の機会があることも指摘しておいてよいと思います。

【質問 08】幹部クラスの人に華人が多いということでしたが、どうしてでしょうか。

【回答 08】今回の授業では、話のポイントを絞るために、華人については意図的に触れませんでした。詳しくはマレーシアについての授業で触れられると思います。一般論として、インドネシアの大企業には華人資本のものが多く、経営陣には華人が多いと考えてよいと思います。華人は、他の民族と違って、おおよそ 19 世紀以降にインドネシアに移住してきたので、インドネシアの中にホームグラウンドを持たないこと、比較的少数（といっても海外に住む華人としては最大多数と言われてはいますが）であるにも関わらずインドネシアの経済の中核を握っていることが、しばしばインドネシア社会の不安定要素となっています。これがリーディングスの 34 ページで述べられている「華人問題」です。

【質問 09】ビデオでジャカルタの巨大ショッピングセンターを見て、ジャカルタの経済発展の様子に驚きましたが、地方との経済格差はどうなっているのですか。

【回答 09】インドネシアは 1990 年代になってバブル経済の時代を迎え、ジャカルタには多くのショッピングセンターが建設されました。好景気の余波はしだいに地方へと広がっており、現在では、ジャカルタのショッピングセンターの小型版が地方の中核都市にも見ることができます。しかしながら、基本的にジャカルタ一極集中という状況は変わっておらず、地方との経済格差には当時も今も極めて大きいものがあります。今回のビデオは、あくまでもジャ

カルタの事例と考えてください。

【質問 10】紹介されたビデオは 1996 年の状況でしたが、現在はどのようなのでしょうか。

【回答 10】ジャカルタの都市の生活状況という点では、ショッピングセンターのにぎわいという面でも、庶民の慎ましい生活という面でも、現在も大きく変わっていないと思います。

【質問 11】イスラーム教徒とイスラーム教徒ではない人とが結婚することはできるのでしょうか。

【回答 11】できます。ただし、原則として、非イスラーム教徒の方がイスラームに改宗した上で結婚することになります。

【質問 12】インドネシアのレストランでは非イスラーム教徒用のメニューがあるのでしょうか。

お店でアルコール飲料は売っているのでしょうか。

【回答 12】インドネシアのレストランは、基本的にすべてイスラーム教徒にあわせていると考えてよいでしょう（中華料理も例外ではなく、豚肉は使われません）。イスラーム教徒が食べられる料理は他の宗教の人でも食べることはできますが、その逆は成り立たないからです。しかし、非イスラーム教徒用の食材は売られていますし、ビールなどのアルコール飲料も普通に買うことができます。

\*\*\*